

## 甲賀の自然環境と絶滅危惧植物に思う

私が植物に興味を持ったのは学生時代に、遊び半分で入部した自然観察（植物分布）のクラブで山歩きをするようになってからのことで、今から40年ぐらい前のことです。京都で下宿していた私は、たまに家に帰ると、まだ、甲賀郡だった郡内を、変わった植物はないかと、出歩いては写真を撮っていました。あるとき、部活で行った藤原岳山麓（三重県側）で見た植物とよく似た花を見つけました。甲賀郡内にもあると知り、うれしくなったものです。この場所から数キロ内にはキンラン、ギンラン、カキラン、モウセンゴケ、ウメバチソウ、イチヤクソウ類やシロバナのオオイワカガミを見つけたりしました。また、全く別の場所で、林道の横の岩にマメヅタランを見つけたり、まだ覚え始めた植物ばかりだったので、こんなものまで、あるのかと思ひ、ますます植物に興味を持ったのを思い出します。しかし、残念ながら今では、いずれも同じ場所で見られなくなりました。

社会人になり、それまで以上に広範囲に郡内の林道を見たりして、1982年に、甲賀市内では、これも今や市内では絶滅したユウスゲを見つけたりしたのですが、徐々に植物からは遠ざかっていきました。自分の子供が小学生になり、みなくち子どもの森の活動に時折、子供と共に参加させていただくようになり、先生方と話をさせていただくようになって、少し植物へ興味がよみがえりました。先生方に学生時代に歩いた林道を案内する事になり、すでに、絶滅したと思っていた植物が、まだ自生していることがわかりました。この植物、最後に見てから5年以上経っていたのですが、数株見つかり安心したのを思い出します。

正確な種名はわからずじまいだったので、それから更に数年たち、2010年を過ぎた頃、滋賀県レッドデータブックを見ていて、かなり貴重な植物であることや、その特徴から種名が判明、甲賀市内では、初めて確認された植物でした。ただ、この植物が自生していた周辺は笹が茂り、道が荒れ、環境は悪化しており、絶滅が心配されます。20年ぐらい前まででしょうか、例えばシュンランやトンボソウなどは、少し山に入れば普通に見られたのに、今ではほとんど見かけなくなりました。人による採取もあります。道路工事の拡張や周囲の環境悪化（荒廃化）によるところが大きいのではと危惧されます。開発でも絶滅の危機が高まりますが、林業や農業の担い手がいなくなり、山林や田畑の荒廃がはじまると、絶滅の危機が高まることを、強く感じるこの頃です。

最近、学生時代からある植物の研究を続けていた友人に、甲賀市内の林道を案内する機会を得ましたが、こんな種類まで少なくなっているのかと、教えられることがあり、驚きました。なんとか子供達のためにも美しい甲賀の自然を守りたいものです。

東 正也 （甲賀市在住）



以前は日当たりの良い山の斜面で見られた薬草のセンブリ。今では、見られることも少なくなりました。